

# 周産期うつ 男性もケアを

あまり知られていない男性の「周産期うつ病」の早期発見とケア

につなげようと、青森県十和田市がスクリーニング検査の体制整備に力を入れている。うつ状態は夫婦間で影響しやすいとされる。男性も支援対象とすることで母親や子どもを含む家族全体の福祉向上に結びつける試みだ。

周産期うつ病は、妊娠中から産後1年程度の女性に睡眠障害や疲れやすさなど心身の不調が生じる精神疾患。身体的な変化や母親になることへの不安から

## 青森・十和田市 検査に注力

### 1割の発症者 見逃されがち

7人に1人が発症するが妊娠婦の家庭を訪問し、妊娠中と産後の計とされる。

2020年には、十和田市立中央病院メンタルヘルス科の徳満敬大医師らが周産期うつ病に関する約1300本の論文を基にデータを分析、周産期のパートナーがいる男性の10人に1人が発症すると明らかにした。ただ認知度は低く、本人や家族、医師も気付かないケースも多いという。

徳満医師と市子育て世代親子支援センターの調査チームは昨年10月、検査体制の構築に着手。保健師や助産師が妊娠婦の家庭を訪問し、妊娠中と産後の計2回、アンケート形式で母親とパートナーの男性双方の様子や悩みを聞き取る。調査は今後約2年続け、回答データを分析。検査やサポートの体制確立を目指す。

妊産婦を支援する自治体は多いが、出産や育児で「サポート役」とみなされがちな男性に寄り添う仕組みは少ない。徳満医師は「男性の周産期うつ病を知ってもらい、家族単位でケアやサポートを充実させることも必要だ」と訴える。